

# <<令和4年度長期研修生 研究主題一覧>>

県総合教育センター研修企画部  
(所属校は令和4年度)

番号	研修内容	氏名	所属校	研究主題	掲載号
1	国語	早川 祐真	横芝光町立横芝小学校	読者反応を高め考えを形成する力を育てる読書指導に関する研究 —リテラチャー・サークルやオンライン読書紹介を通して—	菊
2	国語	太田和 紘子	茂原市立東郷小学校	地域単元を通して問題解決能力を育む書くこの学習 —企画書づくりにおける学習プロセスを踏まえた個別支援—	菜
3	社会	井原 三勇士	船橋市立三山小学校	問題発見能力を育成する社会科学習 —共通の事実認識と新たな事実を関連付けて生じる「事実認識の揺らぎ」に着目して—	蓮
4	社会	河村 将	松戸市立高木第二小学校	児童の社会的な見方・考え方を働かせ、思考力、判断力を高める社会科授業 —社会変化と産業の関わりに着目した産業学習の単元開発を通して—	萩
5	社会	大川 征人	印西市立いには野小学校	地域に見られる社会的課題の解決を目指した学習活動を通して、 地域社会の一員としての自覚を養う社会科学習	菊
6	社会	遠藤 友博	香取市立小見川中学校	「言語によるかかわり」を通して社会的現象を捉える生徒の育成 —トウルミン・モデルを用いた公民的分野の授業づくりと実践—	梅
7	社会	遠藤 学	旭市立干潟小学校	児童の社会的な見方・考え方を働かせ、地域と産業を往還する力を育てる社会科指導 —特殊性と共通性から異なる産業を関連付けた探究学習を通して—	菜
8	社会	小倉 智浩	南房総市立白浜中学校	歴史的思考力を育み、現代社会へといかす社会科学習の在り方 —戦後の高度経済成長の転換点となった水俣病の学習を通して—	菜
9	社会	石橋 賢二	市原市立加茂小学校	小中一貫教育を生かした社会的な見方・考え方を働かせる学習の探究 —SDGsを題材とした異学年と系統的に取り組む学習を通して—	桜
10	算数	平田 彰	松戸市立松飛台小学校	有用性の感得を目指した「比例」の指導 —フェルミ推定を基にした教材を用いる数学的モデリングを通して—	梅
11	算数	吉原 慎司	白子町立関小学校	統計グラフを読み取る力を育成するための指導の在り方 —グラフのかきかえ、問題作成、問題解決の学習活動を通して—	菊
12	数学	中野 雅也	東金市立東金中学校	数学科における主体的に学習に取り組む態度の評価に関する研究 —GRITの高い生徒と低い生徒の数学的活動を比較することより—	桜
13	理科	御園生 裕介	習志野市立第一中学校	中学校1学年「光の性質」の学習における日常生活や社会と関連づけた 深い学びを生み出す理科授業の開発	桜
14	理科	松下 伊織	船橋市立高根東小学校	小学校4年「空気と水の性質」における質的・実体的な見方を育む理科授業	菊
15	理科	大杉 美幸	柏市立田中中学校	電流と磁界の概念理解を促進する学習指導の開発 —概念マップとアーギュメントの活用を通して—	萩
16	理科	林 宏樹	成田市立成田中学校	中学校3年「仕事とエネルギー」の学習における深い理解を生み出す授業づくり	菜
17	理科	渡邊 耕一	茂原市立中の島小学校	小学校4年「すがたを変える水」の「結露」について 学びを深め日常生活につなげる理科指導	蓮
18	音楽	佐藤 麻衣子	船橋市立咲が丘小学校	思いや意図をもって表現し、主体的に学ぶ児童の育成 —音楽づくりにおける音・音楽の「可視化」を中心に—	菊
19	音楽	酒巻 みどり	市原市立国分寺台小学校	思いや意図をもって音楽と関わる児童の育成 —「共通事項」に支えられた思考を伴う音楽づくりの在り方—	梅
20	体育	河西 由香	習志野市立秋津小学校	運動のリズム化能力に着目した体づくりの運動遊び —巧緻性の向上につながる対話的な学びを目指して—	蓮
21	体育	中間 貴之	八千代市立西高津小学校	ベースボール型「ティーボール」における児童の状況判断力を伸ばす授業の在り方	萩
22	体育	敷地 洋祐	船橋市立三咲小学校	児童が思い切り運動に取り組み、楽しさを味わうことができるマット運動 —「小さじ一杯の工夫を施した場」と「関わりを生むシンクロマット」を通して—	萩
23	体育	木村 昭仁	松戸市立東松戸小学校	ネット型の学習内容と学習過程の系統性の検討 —キャッチバレーボールにおけるオーバーハンドパスを簡易化した動きを手掛かりに—	菊
24	体育	川名 博子	南房総市立三芳小学校	投運動において、思考力・判断力・表現力を引き出す低学年体育学習の在り方 —運動のこつをイメージ化するオノマトベに着目して—	梅
25	体育	野本 竜馬	木更津市立南清小学校	児童が素早く走りだすことができるリレー学習の研究 —バトンパス時におけるスタンディングスタートの姿勢分析をもとに—	菜
26	体育	仲野 恭平	富津市立天羽小学校	運動の生活化につながる体づくり運動の学び方 —デジタルログを用いた自己調整学習を通して—	桜
27	小学校 外国語	松木 辰洋	香取市立北佐原小学校	オンラインで広げる小規模校のSmall Talk —多様な相手とのやり取りと対話の続け方の指導を通して—	梅
28	道徳	篠原 千恵	浦安市立明海中学校	自己内対話を充実させる道徳科授業 —Criticalな視点で問いかけ、自己の判断を吟味するプロセスを通して—	萩
29	道徳	松永 美佳	松戸市立和名ヶ谷小学校	探究的な学習のプロセスを取り入れた総合単元的道徳学習プログラムの開発 —「なりたい自分」に向かって考え続ける児童の姿を目指して—	梅
30	総合的な 学習の時間	樋口 陽樹	一宮町立一宮小学校	活力と魅力ある一宮町の創り手の育成 —ESDの視点に立ったプロジェクト型学習を通して—	萩
31	総合的な 学習の時間	辰馬 基倫	鴨川市立天津小湊小学校	地域の課題に目を向け、地域のために行動できる児童の育成 —協働的な学びを取り入れたESDの推進を通して—	桜

32	生徒指導	川島 佳奈子	山武市立山武中学校	子供一人一人の主体性を育む生徒指導体制の構築 —コーチングの視点を活用した関わりを通して—	萩
33	生徒指導	森山 晋	木更津市立八幡台小学校	集団で自己肯定感を高める、積極的な生徒指導の在り方 —総合的な学習の時間における地域交流学習を通して—	菜
34	現代的 教育課題	渡辺 拓也	船橋市立葛飾小学校	「振り返り・改善」から「課題の設定」につなげるためのAIテキストマイニングの活用	萩
35	現代的 教育課題	横田 美紗子	野田市立柳沢小学校	学校教育目標の実現に向けたカリキュラム・マネジメント —総合的な学習の時間を中核としたカリキュラム・デザインとカリキュラムの評価—	梅
36	現代的 教育課題	金子 拓郎	我孫子市立湖北台東小学校	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図るための ICT機器活用ができる教員の育成と研修の実践的研究	菜
37	現代的 教育課題	萩原 沙織	袖ヶ浦市立蔵波中学校	日本語能力に課題がある生徒への指導の工夫 —「JSLバンドスケール」を活用した授業の改善を通して—	菊
38	現代的 教育課題	阿久津 大貴	市原市立牧園小学校	オンラインを活用した探究的な学びを深める単元モデルの開発 —外部人材による学習支援の取組を通して—	桜
39	特別支援 教育課題	土井 淳	習志野市立谷津小学校	通常の学級における教育的ニーズのある児童への行動支援の工夫 —ユニバーサルデザインの視点に基づく、大型ディスプレイによる自作支援ツールの活用を通して—	蓮
40	特別支援 教育課題	方波見 直也	香取市立佐原小学校	コミュニケーションを活性化するための指導の工夫 —特別支援教育オンライン交流学習を通して—	蓮
41	知的障害	藤原 杏子	大網白里市立大網小学校	自分で考え、表出することのできる児童を育む道徳教育や教育課程の工夫 —知的障害特別支援学級でのインクルーシブなカリキュラム・マネジメントを通して—	萩
42	言語障害	山本 朋子	市原市立五井小学校	言語発達に課題のある児童の言語表現力を高める指導 —LCSAIに基づく支援の検討—	菊
43	特別支援 教育課題	午来 大輔	県立船橋夏見特別支援学校	肢体不自由(重度・重複障害)生徒におけるキャリア教育の在り方 —キャリア教育の視点を踏まえた学習指導案(試案)の作成を通してキャリア発達を育む—	梅
44	特別支援 教育課題	武田 和也	県立特別支援学校 市川大野高等学園	特別支援学校高等部普通科職業コース及び専門学科の多職種・多領域連携の在り方 —社会生活サポート会議の実践を通して—	萩
45	特別支援 教育課題	牛島 大悟	県立湖北特別支援学校	特別支援学校(知的障害)における保健体育に関する実践研究 —生涯スポーツの基礎を培うアダプテッド・スポーツと授業の関連と効果—	菜
46	病弱・身体虚弱 重度・重複障害	原田 友里	県立四街道特別支援学校	病弱の子供の学びをつなぐために —不安を安心に変える小中学校への復学支援の在り方について—	菊
47	特別支援 教育課題	山崎 裕之	県立富里特別支援学校	願いや思いを将来につなぐ「キャリア・パスポート」の活用を目指して —「キャリア・カウンセリング」の視点を反映したキャリア教育—	桜
48	インクルー シブ教育	木下 武治	県立栄特別支援学校	ICTを利活用した居住地校交流の在り方について —小学校と特別支援学校の実践を通して—	菊
49	特別支援 教育課題	本宮 久仁彦	県立香取特別支援学校	知的障害特別支援学校における理科や社会科の評価方法について —実態の幅が広い生徒集団に対する授業実践を通して—	菊
50	知的障害	大矢 翼	県立市原特別支援学校 つるまい風の丘分校	地域貢献を通じた、魅力ある学校づくりに向けて	桜
51	教育臨床	鈴木 智実	船橋市立二和小学校	教員の「遊び心」のある関わり	桜
52	教育臨床	塩原 歩	市川市立富美浜小学校	教員の「遊び心」のある関わり	桜
53	教育臨床	大場 裕幸	印西市立西の原小学校	教員の「遊び心」のある関わり	桜
54	教育臨床	梶 祐梨子	いすみ市立国吉中学校	教員の「遊び心」のある関わり	桜
55	企業等派遣	河合 絵里	県立幕張総合高等学校	教職員の組織へのエンゲージメントについて —先進企業の人材育成に学ぶ—	蓮
56	企業等派遣	高藤 美奈穂	県立八千代特別支援学校	企業での自己肯定感と働く意欲の向上につながる人材育成の在り方について	萩
57	企業等派遣	三木 将司	県立特別支援学校 流山高等学園	生徒に寄り添うための関わり方とその手法の在り方について	梅
58	企業等派遣	百瀬 福太郎	県立大網白里特別支援学校	障害者の職場定着を目指した支援の在り方について —就労の定着にむけた基本的な力の育成に向けて—	桜
59	企業等派遣	落合 修	県立大網白里特別支援学校 県立富里特別支援学校	企業の経営理念を学校経営に生かす	菜
60	企業等派遣	片山 裕二	松戸市立 上本郷第二小学校	組織経営のリーダーとしてのマネジメント力の向上について	萩
61	企業等派遣	若梅 孝篤	山武市立大平小学校	派遣企業における組織マネジメントの手法の追求	菊
62	企業等派遣	長谷川 龍之介	県立流山南高等学校	視野の拡充と発想力の習得を企業努力の観点から学ぶ	桜

- ・研修内容の教科等、特別支援教育、教育臨床については、教育コンテンツ・データベース「Wakaba」で閲覧することができます。
- ・千葉県総合教育センターWebサイトトップページ→学校支援／授業支援→学習指導案等で検索してください。

## 社会

## 問題発見能力を育成する社会科学習

- 共通の事実認識と新たな事実を関連付けて生じる

「事実認識の揺らぎ」に着目して-

船橋市飛ノ台史跡公園博物館館長代理（前三山小学校教諭） 井原 三勇士

社会科における問題解決的な学習は、子供自身が問題意識をもち、問題を発見することから始まる。つまり、子供たちが主体的に学び、問題を解決していくためには、「解決すべき問題は何かを定義する力」が不可欠となる。そこで、本研究では、問題発見させるための授業構成や、問題発見能力の育成方法を明らかにするため、4年生の「上水道」、「下水道」の単元で検証授業を行い、学習問題の評価規準を作成した。子供が発見した学習問題を評価した結果、問題発見の経緯や発見の手立ての有意性が示された。今後は、この研究で明らかにされた問題発見の方法をより多くの教職員に広めていき、子供たちの問題発見能力を育成することで、持続可能な社会の担い手へと成長させていきたい。

## 理科

## 小学校4年「すがたを変える水」の「結露」について

- 学びを深め日常生活につなげる理科指導 -

一宮町立一宮小学校教諭（前茂原市立中の島小学校教諭） 渡邊 耕一

水蒸気を扱う学習では、児童にとって見えないものが存在することを学ぶため、理解することの難しさが指摘されている。また、学習指導要領で求められている主体的・対話的で深い学びの実現のためには、児童の興味・関心を高める授業を行い、疑問を解決し、日常の自然現象と学びをつなげていくことが重要である。そのための手立てとして、①「すがたを変える水」において「結露」の授業を加えること、②水の温度変化とその様子について児童が実験方法を考え追究すること、③日常生活と関連付けた課題を解き説明し合うこと、の三つが有効であることが分かった。この成果を、他単元に生かしたり、他校に広めたりして、理科を学ぶ意味や有用性を高められるようにしていきたい。

## 体育

## 運動のリズム化能力に着目した体づくりの運動遊び

- 巧緻性の向上につながる対話的な学びを目指して -

習志野市総合教育センター指導主事（前秋津小学校教諭） 河西 由香

昨今、低学年の段階で既に児童の運動習慣の二極化傾向が見られ、技能的下位の児童の動きのぎこちなさも年々顕著になっていることに課題を感じ、児童の巧緻性を高めたいと考えた。そこで、第2学年を対象に、「運動のリズム」や「対話」を重視した「多様な動きをつくる運動遊び」の授業実践を行った。その結果、運動のリズムをもとにした対話的な学びを軸とした学習指導が、児童の巧緻性の向上に有効であることを明らかにすることができた。今後は、運動のリズムをもとにした対話を促す「表現リズム遊び」の要素を取り入れた学習内容、技能的異質・等質ペアの学び合いを毎時間設定した学習形態の有効性を周知するとともに、友達との豊かな対話を通して「動ける身体」を育む授業実践に励みたい。

## 特別支援教育課題

## 通常の学級における教育的ニーズのある児童への行動支援の工夫

-ユニバーサルデザインの視点に基づく、大型ディスプレイによる自作支援ツールの活用を通して-

習志野市立東習志野小学校教諭（前谷津小学校教諭） どい じゅん 土井 淳

小学校の通常の学級に在籍する教育的ニーズのある児童の授業中の気になる行動の減少を目指して、ユニバーサルデザインの視点に基づく画像や効果音を取り入れた自作支援ツールを作成した。本ツールを活用した授業を約66単位時間実施し、その効果の検証をビデオ分析、児童と学級担任への質問紙調査を通して行った。その結果、教育的ニーズのある児童の気になる行動の減少だけでなく、学級内の他の児童にも同様の有効性が示された。また、本ツールにより、言葉での指示の減少や児童の注目を引き付けることができたことが授業支援につながり、その有効性が分かった。今後は更なる工夫改善を行い、本ツールを多くの教員に活用してもらえるよう発信していきたい。

## 特別支援教育課題

## コミュニケーションを活性化するための指導の工夫

-特別支援教育オンライン交流学習を通して-

香取市立小見川中央小学校教諭（前佐原小学校教諭） かたば み なおや 方波見 直也

言葉のやり取りの苦手さやコミュニケーションに対する自信の欠如などから、人とのやり取りにおいて消極的な児童に対し、ICT機器を活用したオンライン交流学習が有効と考えた。研究の結果、オンラインの場面での自己表現だけでなく、「相手を見る」等の基本的なやり取りも含め、通常の学級における対面でのコミュニケーションの学習につながった。また、事例児童への結果も踏まえ、オンライン交流学習やICT機器の有効性や活用性が見られた。さらに、オンラインやその録画を活用することで、通常の学級と通級指導教室との連携が促進する可能性があることが分かった。今後は、自校の交流だけにとどまらず他校とも積極的に行い、コミュニケーションの活性化や遠隔授業の充実に努めていきたい。

## 企業等派遣

## 教職員の組織へのエンゲージメントについて

-先進企業の人材育成に学ぶ-

県立特別支援学校市川大野高等学園教頭（前幕張総合高等学校教諭） かわい えり 河合 絵里

学校組織における個人を尊重し、自己肯定感や帰属意識を高めるためには、教員コミュニティの活性化が望まれる。Classi株式会社では、ICTツールを活用したブレイクアウトルーム（意見共有・学び合いの場）が活発である。あらゆる情報をシェアし、一人一人が思考・行動することが、社内風土（ポジティブな組織文化や共感性）の醸成やコミュニケーションの活性化につながることを体感することができたのは大変有意義であった。

本研修での学びと体験をもとに、ICT利活用を選択肢の一つとして教員コミュニティの活性化を目指したい。校務の質を高める意識と行動の動機づけを図り、教員一人一人がより高いエンゲージメントを獲得できるよう、これからの自身の業務に主体的に臨んでいく。